

特許・実用新案登録一覽

—昭和50年度—

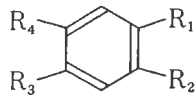
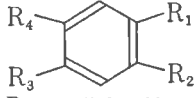
<日本特許> 45件

No.	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
1	753345 (50. 1. 13)	49-14041 (49. 4. 4)	44-4740 (44. 1. 24)	金属アルカリの連続採取装置	回転する軸に、長手方向に開口している樋状のパイプを接続し、このパイプにスパイラル、蝸牛状、半円形などの形状をした金網または多孔金属板の一縁を接続し、その他縁を自由にしてなる金属アルカリすくい上げ部と、この金属アルカリを導く道路部とを設けるが、または前記金網もしくは多孔金属板の一縁を樋状のパイプ状に曲げて直接回転軸と接続し、その他縁を自由にして金属アルカリすくい上げ部とこの金属アルカリを導く道路部とを設けた金属アルカリの連続採取装置。
2	753558 (50. 1. 13)	49-13958 (49. 4. 4)	45-121416 (45. 12. 29)	反応型難燃処理剤による繊維の難燃処理法	<p>天然繊維または／および合成繊維あるいはそれら繊維のいずれか一方もしくは双方を含む繊維製品を次式で表わされる化合物</p> $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_n \text{N} \begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{P}(\text{OR})_{3-n} \end{array} \\ \\ R_2 \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_n \text{N} \begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \end{array} \begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{P} \end{array} \begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_2 \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \end{array}$ <p>(但しRはハロゲンアルキル基またはそれらのハロゲンの1部をスルホン酸ソーダ基で置換したもの、R₁はハロゲンアルキレン基又はそれらのハロゲンの1部をスルホン酸ソーダ基で置換したもの、R₁, R₂はHまたはアルキル基、nは1~2である)の少なくとも1種を有効成分とする難燃剤で処理することを特徴とする繊維の難燃処理法。</p>
3	753559 (50. 1. 13)	49-13959 (49. 4. 4)	45-122090 (45. 12. 30)	半永久的な繊維の難燃処理法	<p>天然または／および合成繊維あるいはこれらの繊維のいずれか一方、もしくは双方を含む繊維製品を、次式であらわされる化合物</p> $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_n \text{N} \text{P}(\text{OR})_{3-n} \cdot \begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_n \text{N} \begin{array}{c} \text{S} \\ \\ \text{P}(\text{OR})_{3-n} \end{array} \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_n \text{N} \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \text{P} \left(\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_2 \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \right) \cdot \begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_2 \text{N} \begin{array}{c} \text{S} \\ \\ \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \end{array} \text{P} \begin{array}{c} \text{S} \\ \\ \text{P} \end{array} \begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right)_2 \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \end{array}$

No	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
					$\begin{array}{c} R_1 \\ \\ (\text{CH})_2 \\ \\ R_2 \end{array} \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \text{P}(\text{S}) \begin{array}{c} R_1 \\ \\ (\text{N} < \text{CH} > \\ \\ R_2 \end{array} \cdot \begin{array}{c} R_1 \\ \\ (\text{CH})_2 \\ \\ R_2 \end{array} \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \text{P}(\text{O}) \begin{array}{c} R_1 \\ \\ (\text{N} < \text{CH} > \\ \\ R_2 \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ (\text{CH})_2 \\ \\ R_2 \end{array} \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \text{P}(\text{O}) \text{P}(\text{S}) \begin{array}{c} R_1 \\ \\ (\text{N} < \text{CH} > \\ \\ R_2 \end{array}$ <p>(ここでRはハロゲンアルキル基, R₁ はハロゲンアルキレン基, R₁ と R₂ はHまたはアルキル基で, R₁ と R₂ は相互に同一でも異なってもよい。n 1~2である。)の少なくとも1種を有効成分とする難燃剤で処理することを特徴とする繊維の難燃処理法。</p>
4	755302 (50. 1. 28)	48-30359 (48. 9. 19)	44-55379 (44. 7. 12)	ポリオレフィン又はオレフィンの共重合樹脂の発泡成形方法 (石田 正明, 西村 充, 栗原 忠男)	ポリオレフィン又はオレフィンの共重合樹脂とその軟化温度以上の温度で分解してガスを発生する発泡剤と, 有機過氧化物との混合物を押し出し機により加熱した状態で均一に練り合わせ, この練り合わせ物に圧力を加えて, 所定の金型に圧入し, この金型には得ようとする成形体の形状を一定の割合で縮小した型窩を設けておき, この金型は上記練り合わせ物の加熱温度よりも高い温度に維持しておくものとし, この金型の型窩内に上記樹脂を十分に充填してのち, そのままの状態にしばらく保持し, そののち上記金型を開いて樹脂の発泡を行なわせることを特徴とする発泡成形方法。
5	756826 (50. 2. 10)	49-19118 (49. 5. 15)	45-122442 (45. 12. 30)	新規耐熱性樹脂の製造法 (田井 晰, 柴田 勝弥, 南出 博)	一般式 $\begin{array}{c} \text{NH}_2 \\ \\ \text{NH}_2 \end{array} > \text{R}, -\text{CONH NH}_2$ で示されるジアミノカルボン酸ヒドラジド類と一般式 $\text{O} < \begin{array}{c} \text{CO} \\ \\ \text{CO} \end{array} > \text{R}_2 < \begin{array}{c} \text{CO} \\ \\ \text{CO} \end{array} > \text{O}$ で示されるテトラカルボン酸二無水物類 (R ₁ R ₂ はそれぞれ3価及び4価の基を表わし脂肪族, 脂環族, 芳香族, ヘテロ環族及びこれらの組合せか又はこれらが -O-, -CH ₂ -, -O-(CH ₂ CH ₂ -O) _n (n=1, 2, 3...) -S-, -SO ₂ -, -Si-, -CO-, -CONH- 等と結合した残基を意味する。)とも有機極性溶剤中にて50°C以下で反応させ前駆ポリマーである溶剤可溶性ポリアミドヒドラジド酸アミンを製造し, 次いで該ポリマーを加熱又は脱水剤にて脱水閉環反応を行いポリイミダゾピロロン-ヒドラジド共重合体とすることを特徴とする耐熱性樹脂の製造法。
6	757327 (50. 2. 13)	49-20951 (49. 5. 28)	45-32672 (45. 4. 18)	塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 斉藤 光高, 鈴木 祐二, 高本 邦夫)	EVA の存在下ラジカル開始剤を用いて塩ビを懸濁重合させる際, EVA を溶解し, しかもPVC に対して可塑作用を有する有機化合物をEVA に対して2倍以下共存させることを特徴とするグラフトマーの製法。
	758163 (50. 2. 19)	49-19256 (49. 5. 16)	44-53102 (44. 7. 7)	ブタジエンのアセトキシル化反応における触媒の分離法 (小野 勲, 柳原 忠久,	ブタジエンのアセトキシル化反応に於て, 反応生成物と金属塩類の双方を含有する酢酸溶液として得られる反応液に少なくとも一種のバラ

№	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要 旨
7	岡田 宏亮, 古賀 俊国, 生重 哲男)				フィン系炭化水素またはハロゲン化炭化水素類, エーテル類, エステル類, ケトン類および芳香族炭化水素類のうちから選択された少なくとも一種の溶剤を含有する少なくとも一種のパラフィン系炭化水素を接触させて, 主に反応生成物を含有するパラフィン系炭化水素層と主に金属塩類を含有する酢酸層とを形成せしめることにより, ブタジエンのアセトキシ化反応生成物と金属塩類を分離する方法。
8	759464 (50. 3. 5)	49-21308 (49. 5. 31)	45-126774 (45. 12. 30)	新規なグラフト共重合体の製法	カルボニル基を含有する重合体とリビングポリスチレンをグラフト重合させ, 更に該反応生成物にアクリルニトリル又はメタクリル酸メチルを導入して重合させることを特徴とするカルボニル基を含有する重合体にスチレンとアクリルニトリル又はメタクリル酸メチルのブロック共重合体がグラフト化した新規なグラフト共重合体の製法。
9	759970 (50. 3. 5)	49-24344 (49. 6. 21)	44-99709 (44. 12. 11)	非凝縮性ガスからの凝縮性物質の回収法	底部に液を貯えた 堅型管式 熱交換器の 液部に冷却されるべきガスを吹き込み, このガスが該液を同伴して冷却管内を気液混相で流れ, ガス中の凝縮性蒸気の一部あるいは全部が凝縮され, 更にガス及び液は冷却され, 冷却管を出た気液は分離されて, 液は溢流して底部に戻り, 液の1部は底部より抜き出されることを特徴とする。
10	759971 (50. 3. 5)	49-23596 (49. 6. 17)	45-67590 (45. 8. 1)	耐衝撃性スチレン系ポリマーの製造方法	スチレンとアクリルニトリルを St/N=50~90 Wt %/50~10 の割合で共重合した共重合体に EVA をグラフトし, 耐衝撃性を向上した樹脂の製造方法。
11	759972 (50. 3. 5)	49-23101 (49. 6. 13)	45-72889 (45. 8. 20)	親水性合成粘土の製造法	含水アルミナ珪酸塩を主成分とする粘土鉱物質に鉱酸を作用せしめて該粘土鉱物質中の酸化アルミニウムの一部または全部を溶解せしめてのち, これにアルカリ性物質を添加することにより生成するアルミナ水和物を珪酸あるいは珪酸を含む未反応粘土鉱物質の表面に固着せしめることを特徴とする相溶性ならびに親水性大なる合成粘土の製造方法。
12	760626 (50. 3. 12)	49-23292 (49. 6. 14)	44-94666 (44. 11. 27)	可剥性エマルジョン塗料組成物	プロピオン酸ビニルと, これに対し3~50重量%の塩化ビニルとを乳化共重合させて得られる共重合体エマルジョンを基材とした可剥性エマルジョン塗料組成物。
13	760726 (50. 3. 12)	49-24474 (49. 6. 22)	44-10662 (44. 2. 13)	結晶性ヘキサプロモシクロドデカンの製造法	t-t-t-シクロドデカトリエン-1, 5, 9 に臭素を付加反応せしめて 179°C の融点をもつヘキサプロモシクロドデカンの結晶を製造するにあたり, まず 40°C 以下の温度において t-t-t-シクロドデカトリエン-1, 5, 9 1モルに対し約1モルの臭素を反応せしめ, しかる後 41°C 以上 70°C を超えざる温度において残余の臭素を反応せしめ事後冷却してヘキサプロモシクロドデカンの結晶を析出せしめること。

No	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
14	760727 (50. 3. 12)	49-24475 (49. 6. 22)	45-19430 (45. 3. 7)	トランス-トランス-ジ ス-シクロドデカトリ エンに臭素付加して結 晶性ヘキサプロモンク ロドデカンを製造する 方法	トランス-トランス-ジス-シクロドデカトリエン-1, 5, 9 に臭素を付加反応せしめて、融点 201°C のヘキサプロモンシクロドデカンの結晶を製造するにあたり、アルコール類とエステルの混合溶媒中で臭素を付加して塩基で中和し、好収率で結晶性ヘキサプロモンシクロドデカンを得ることを特徴とする製造法。
15	763036 (50. 3. 28)	49-10127 (49. 3. 8)	41-36468 (41. 6. 8)	マグネシアクリンカー のブリケット製造法	水酸化マグネシウムをロータリキルンで 1700°C ~ 1900°C に焼成して得られるマグネシアクリンカーを節分けして所定粒径と所定粒径以外のものに分け、所定粒径以外のものを微粉砕したのちこれを所望サイズに加圧成型し、得られる成型品を前記ロータリーキルン中へ還流して水酸化マグネシウムとともに 1700°C ~ 1900°C に焼成することを特徴とするブリケット状マグネシアクリンカーの製造法。
16	763037 (50. 3. 28)	47-35165 (47. 9. 4)	38-69 (38. 1. 8)	ゼーダーベルグ自焼成 電極調整法	ゼーダーベルグ式自焼成電極を構成する原料を乾燥、粒度調整を行なった後、そのまま混合したものをゼーダーベルグ式電極ケース(簡易ゼーダーベルグ式を含む)に投入して自己焼成を行なうことを特徴とするゼーダーベルグ式自焼成電極調整法。
17	763038 (50. 3. 28)	45-10632 (45. 4. 16)	41-68601 (41. 10. 20)	可剥性塗料組成物	プロピオン酸ビニル 10~50 重量%, 塩化ビニル 90~50 重量%, 平均重合度 100~600 の共重合体樹脂を含有することを特徴とする可剥性塗料組成物。
18	765325 (50. 4. 14)	49-28322 (49. 7. 25)	44-33585 (44. 5. 2)	金属ナトリウムの精製 法	水銀含有の粗製金属ナトリウムと鉛とを所定の割合に混じて加熱溶融して合金とし、該合金を溶融状態で陽極とし、NaI, NaBr, NaCN の群から選ばれた 2 種以上の溶融塩を電解浴として電解抽出して金属ナトリウムを析出させることを特徴とする金属ナトリウムの精製法。
19	767301 (50. 4. 26)	48-17160 (48. 5. 26)	45-3991 (45. 1. 14)	重碳酸ソーダの結晶生 長法	蒸発、冷却、反応による析出等の方法で水溶液から重碳酸ソーダ結晶を析出させるにあたり、母液中に少量のポリアクリル酸ソーダまたはその誘導体を添加することを特徴とする重碳酸ソーダ結晶の成長法。
20	767409 (50. 5. 7)	49-31170 (49. 8. 20)	44-9713 (44. 2. 12)	クロム基合金の消耗電 極の製造法	クロム基合金の一成分以上(クロム単独の場合を除く)を有する金属材料(合金材を含む)を陰極としクロム塩を含む水溶液を電解液として電解を行ない、該陰極に金属クロムを電着させ、得られた電着物とその陰極と一体となったものをそのままクロム基合金の消耗電極とすることを特徴とするクロム基合金用消耗電極の製造法。
	767410 (50. 5. 7)	49-30821 (49. 8. 16)	45-103678 (45. 11. 26)	無水ピロメリット酸の 製造法	溶融アルミナ塊上にそれぞれが酸化物または高温度で酸化物に転化するバナジウム源、リン源、モリブデン源及びチタン源を溶融状態で担持させて得られた触媒の存在下で、下式で示される 1, 2, 4, 5-テトラアルキルベンゼン

№	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要 旨
21					 <p>(R₁, R₂, R₃, R₄ はメチル基, エチル基, <i>n</i>-プロピル基, <i>i</i>-プロピル基, <i>n</i>-ブチル基又は <i>i</i>-ブチル基などを示す) の1種あるいは2種以上の混合物と空気あるいは分子状酸素含有ガスとの混合物を反応させることを特徴とする無水ピロメリット酸の製造法。</p>
22	767774 (50. 5. 7)	49-26659 (49. 7. 11)	45-61663 (45. 7. 14)	水銀含有廃水の処理方法 (高德 宗忠)	電解工場の水銀を含む廃水を, 酸化処理を行なう第1工程, 酸化処理に使用した過剰の酸化剤の還元処理を行なう第2工程, アニオン交換樹脂で処理する第3工程, 該樹脂を濃塩酸で溶離する第4工程, 溶離液を電解液のpH調整に使用する第5工程を順々に進めようことを特徴とする水銀含有廃水の処理方法。
23	770619 (50. 5. 30)	49-32709 (49. 9. 2)	42-52686 (42. 8. 18)	海水より水酸化マグネシウムを製造する方法 (鈴木 勲)	隔膜又はイオン交換膜で陽極室と陰極室とに分った電解槽で, 陽極室に必要なに応じて酸を加えた海水を装入して電解し, 陽極室排液のpHを3~5になるように調整し, 塔に導き, 塔頂より流下させ塔底より空気を吹き込んで臭素を追い出し, これを回収し, 臭素を回収した母液を前記電解槽の陰極室に装入し, 得られる陰極室排液にアルカリ源を加えることを特徴とする水酸化マグネシウムの製造法。
24	770620 (50. 5. 30)	49-32200 (49. 8. 28)	44-82963 (44. 10. 18)	ホウ水素化ナトリウムの精製法 (村山 浩, 木村 利郎)	ナトリウムアルコラートを含有する粗製ホウ水素化ナトリウムを精製するさい, 該粗製ホウ水素化ナトリウムから液体アンモニア又はアルキルアミンによりホウ水素化ナトリウムを抽出し, 得られる抽出液に炭素数が3乃至5の飽和アルコールを加えて蒸留してホウ水素化ナトリウムを晶出させることを特徴とするホウ水素化ナトリウムの精製法。
25	770621 (50. 5. 30)	49-31973 (49. 8. 27)	45-111142 (45. 12. 15)	無水ピロメリット酸の製造法 (岩本 英次, 吉田 正美, 丹告 太郎, 五十嵐寿夫)	<p>酸化バナジウム源および酸化ホウ素源と酸化スズ源, 酸化リン源, 酸化チタン源, 酸化ナトリウム源のうち一種を担体に担持させたものを触媒として, 下記で示される1, 2, 4, 5-テトラアルキルベンゼンの一種又は二種以上の混合物を空気又は分子状酸素含有ガスで酸化することを特徴とする無水ピロメリット酸の製造法。</p>  <p>(R₁, R₂, R₃, R₄ はそれぞれメチル基, エチル基, <i>n</i>-プロピル基, <i>i</i>-プロピル基, <i>n</i>-ブチル基, 又は <i>i</i>-ブチル基)</p>
	770833 (50. 5. 30)	48-42952 (48. 12. 15)	44-25359 (44. 4. 2)	水性重合体エマルジョンの製法 (小野 勲, 新谷 孝司, 明石 光正)	アクリル酸エステル1つ又はそれ以上の混合物或いはこれらのエステルと該エステルと重合可能なビニル系単量体の1つ又はそれ以上の混合物を水性媒体中で乳化重合する際, 前記単量体混合物100部にメタアクリル酸のグリシ

No.	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
26					ジルエステルを酸性亜硫酸塩又はリン酸で処理して得られる変性されたビニル単量体3~10部を共重合することによりなり最終的に pH6~10 とすることを特徴とする水溶性重合体エマルジョンの製造方法。
27	770963 (50. 5. 30)	49-32754 (49. 9. 2)	44-46549 (44. 6. 12)	繊維の難燃化剤 (迫村 寿男, 藤井 一)	ポリエチレンポリアミンの臭化水素酸塩あるいはそのリン酸塩, エチレンジアミンの臭化水素酸塩あるいはそのリン酸塩の少なくとも一種またはこれに尿素を配合してなる繊維難燃化剤。
28	770964 (50. 5. 30)	49-32755 (49. 9. 2)	45-24713 (45. 3. 24)	繊維の強固な耐燃処理法 (迫村 寿男, 藤井 一, 服部 達夫)	天然または合成繊維をポリエチレンポリアミン, エチレンジアミンの臭化水素酸塩またはそれらのリン酸塩の少なくとも一種とメチル化メチロールメラミンあるいはこれにホルマリンを配合し, さらにこれに硬化剤を添加し, しかる後塩基または酸で pH を 2~12 に調整した水溶液で処理し, あるいはさらに熱処理することを特徴とする繊維耐燃処理法。
29	770965 (50. 5. 30)	49-32756 (49. 9. 2)	46-91238 (46. 11. 15)	繊維の難燃処理法 (迫村 寿男, 藤井 一)	繊維をポリエチレンポリアミンの臭化水素酸塩あるいはそのリン酸塩, エチレンジアミンの臭化水素酸塩あるいはそのリン酸塩の少なくとも一種またはこれに尿素を配合してなる難燃剤と該難燃剤 100 (重量) 部に対して 5~30 (重量) 部のホルマリンで処理することを特徴とする繊維難燃処理法。
30	774580 (50. 7. 16)	49-36209 (49. 9. 28)	44-92014 (44. 11. 17)	アクリル酸水溶液の抽出における二液の分離速度増加法 (大槻 進, 堀 恭一, 宮之原 勲)	アクリル酸またはアクリル酸および他の有機酸を含む水溶液から有機溶剤を用いてそれら有機酸を抽出する際に, 該水溶液および該有機溶剤よりなる処理液に対しアルカリ金属塩又はアンモニウム塩を 0.02~2 重量% 存在せしめることを特徴とする有機溶剤相と水相の分離速度を速める方法。
31	780936 (50. 8. 11)	49-42496 (49. 11. 15)	44-10661 (44. 2. 13)	シクロドデカトリエンの製造法 (小野 勲, 山田 静夫, 佐々木博朗, 田中 哲夫)	不活性溶媒の存在下においてアルキルアルミニウムセスキクロライドおよび一般式 Ti(OAr) ₄ (ただし Ar は 2-ニトロフェニル基, 2 または 4-クロロフェニル基, を表わす) なるチタニウムテトラアロキサイドを用いてブタジエンを環化三量化してシクロドデカトリエンを製造する方法。
32	780951 (50. 8. 11)	49-46536 (49. 12. 10)	45-126776 (45. 12. 30)	難燃性クッション材料の製造法 (藤井 一, 中沢 秀昭, 新谷 孝司, 中村 泰憲, 福井 信夫, 倉田 伸二, 佐々木 潔)	臭化アンモニウム, 臭化アンモニウム一塩素化パラフィン乳化液, エチレンジアミンジハイドロプロマイド, あるいはこれらの混合物の pH 8~11 の水溶液を含加硫剤天然ゴムラテックス, 合成ゴムラテックスあるいはこれらの混合物に配合して得られる処理液をフォームに添加し, 加硫させることを特徴とする難燃クッション材料の製造法。
	782160 (50. 8. 18)	48-27290 (48. 8. 21)	44-20099 (44. 3. 18)	1,4-ジアシルオキシ-2-ブテン類を製造する方法 (小野 勲, 深堀建太郎)	ブタジエン, 炭素数 8 以下の脂肪族モノカルボン酸および酸素を含む混合ガスをパラジウム, イリジウム, 白金, ロジウムおよびルテニウム金

№	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要 旨
33	下村 清一)				<p>属の少なくとも一種またはこれらの金属のカルボン酸塩、あるいは無機酸塩を触媒として充填した反応層で気相流通反応を行なわせて、一般</p> $ \begin{array}{ccccccc} & \text{H} & \text{H} & \text{H} & \text{H} & & \\ & & & & & & \\ \text{H} & -\text{C} & -\text{C} & =\text{C} & -\text{C} & -\text{H} & \\ & & & & & & \\ \text{R}_1-\text{C} & -\text{O} & & & \text{O} & -\text{C}-\text{R}_2 & \\ & & & & & & \\ & \text{O} & & & \text{O} & & \end{array} $ <p>式(R₁およびR₂は水素原子、アルキル基またはアルケニル基を示す。一般式はシス型を示しているがトランス型も含む)で示されるような1・4-ジアシルオキシ-2-ブテン類を製造する方法。</p>
34	782643 (50. 8. 27)	46-7271 (46. 2. 23)	42-22761 (42. 4. 10)	クロロプレン共重合体の製造方法 (井沢 正一, 清水 明彦, 鳴井 衛, 引中 武士)	クロロプレン 100 部と 1-クロロブタジエン-1・3, 1~30部とブタジエン-1・3 若しくは 2・3-ジクロロブタジエン-1・3, 1~30 部を共重合せしめることを特徴とする良好な低温特性および加硫特性を有するクロロプレン系三元共重合体の製造方法。
35	784133 (50. 8. 27)	49-48925 (49. 12. 24)	45-36054 (45. 4. 27)	ジクロロブテンより1, 4-ジアセトキシ-2-ブテンの製造法 (迫村 寿男, 木佐木 尚, 多田 孝, 真淵 俊介)	3, 4-ジクロロ-1-ブテンまたはこれと 1, 4-ジクロロ-2-ブテンとの混合物を酢酸のアルカリ塩と反応せしめて酢酸エステルを製造するにあたり、鉄、亜鉛の金属単体およびこれら金属の化合物から選ばれた少なくとも一種を添加することにより 1, 4-ジアセトキシ-2-ブテンを選択的に製造する方法。
36	785494 (50. 9. 5)	49-20581 (49. 5. 25)	44-63840 (44. 8. 14)	テトラヒドロフラン水溶液の濃縮方法 (木佐木 尚, 真淵 俊介, 水野 敏勝)	含水テトラヒドロフラン(含水 THF)より無水 THF を製造するにあたり、20~55重量%濃度のアルカリ金属水酸化物の水溶液と該含水 THF を接触させ水の抽出を行ない水-THF系の共沸混合物組成よりも更に THF 濃度の高い混合物を製造する方法。
37	786194 (50. 9. 5)	50-281 (50. 1. 8)	42-57146 (42. 9. 6)	昆布を用いたポンプ回転軸軸封部の漏液防止方法 (片山 務)	固形物を含有する塩類水溶液を回転軸を有するポンプによって送液するに当り、該ポンプの回転軸軸封部に繩状または帯状の昆布を充填することを特徴とするポンプ回転軸軸封部の漏液防止方法。
38	786869 (50. 9. 16)	50-805 (50. 1. 11)	43-72892 (43. 10. 8)	金属クロム又はクロム基合金の消耗電極の製造法 (鈴木 賢造, 佐々木清也)	所定の形にした陰極材を陰極とし、クロム塩を含む水溶液を電解液として電解を行ない、電解工程後金属クロムが電着した陰極より薬剤で溶解するか、又は加熱溶解して陰極材を除去し、さらに得られた電着物を脱水素することを特徴とする金属クロムの消耗電極の製造法。
39	789862 (50. 9. 29)	48-10765 (48. 4. 7)	44-63839 (44. 8. 14)	2-ブテン-1, 4-ジオールの製造法 (木佐木 尚, 真淵 俊介, 提 幸弘)	1・4-ジハロ-2-ブテンを加水分解して 2-ブテン-1・4-ジオールを製造するにあたり、C ₂ ~C ₄ のカルボン酸のアルカリ金属およびアンモニウム塩を存在せしめつつ、混合液の水素イオン濃度(pH 値)が3~11の範囲を出でざるごとくアルカリ又はアルカリ性を呈する塩類を添加することを特徴とする 2-ブテン-1・4-ジオールの製造方法。

No.	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
40	791003 (50.10.7)	50-4576 (50.2.21)	44-90475 (44.11.13)	溶成ほう素マンガん燐肥の製造法 (川澄 義明, 庄田建次郎, 日向 栄市)	燐鉱石, 蛇紋岩, ケイ石, 石灰石などの溶成燐肥原料をほう素原料およびマンガん源原料とともに溶融して, 溶成ほう素マンガん燐肥を製造するにあたり, あらかじめほう素原料およびマンガん源原料ならびに前記溶成燐肥原料の一部を混合してその融点が $1300^{\circ}\text{C} \pm 100^{\circ}\text{C}$ の範囲にある混合組成物としたのちこれを造粒し, 得られた造粒組成物を残余の溶成燐肥原料と混じて平炉で溶融することを特徴とする溶成ほう素マンガん燐肥の製造法。
41	791004 (50.10.7)	50-4479 (50.2.19)	45-122434 (45.12.30)	β -二酸化マンガんの製造法 (小柴 淳治, 出雲路文彦)	γ 二酸化マンガんおよび / 又はラムスデライトを二価マンガんイオンを含む酸性水溶液中で加熱処理してこれを β 二酸化マンガんに転換することを特徴とする β 二酸化マンガんの製造法。
42	792174 (50.10.17)	50-5685 (50.3.6)	45-126775 (45.12.30)	酢酸アリの製造法 (木佐木 尚, 提 幸弘, 竹重 浩祐)	金属パラジウムと金属鉛およびアルカリ金属またはアルカリ土類金属のカルボン酸塩からなる触媒の存在下で, プロピレン, 酸素 (または空気) および酢酸を気相で反応させることを特徴とする酢酸アリの製造方法。
43	794301 (50.11.8)	49-36398 (49.9.30)	44-73146 (44.9.12)	水冷による押出延伸フィルム ¹ の製造方法 (齊藤 茂助)	円環状細隙を備えた口金から熔融した熱可塑性樹脂を下方に向けて連続的に押出して, 下記樹脂から成る円筒状成形体を連続的に作り, これを下方に向けて進行させ, 上記円筒状成形体の中には, 上記細隙の外周よりも大きい外周を持った芯体を挿入し, 円筒状成形体を芯体外周に沿って下方に進行せしめ, 円筒状成形体は芯体外周に接触するまでに内径方向に延伸され, 芯体上面には液体を貯溜せしめ, 円筒状成形体は, その内径が最大長にまで拡大される直前に, 液体に接触して内面が冷却され, かくして円筒状成形体はその内径を拡大されると共に内面を急冷されることを特徴とする水冷による押出延伸フィルム ¹ の製造方法。
44	794621 (50.11.8)	49-13871 (49.4.3)	44-25357 (44.4.2)	変性重合体エマルジョン ¹ の製造方法 (小野 勲, 新谷 孝司, 明石 光正)	アクリル酸 エステルの 1つ又はそれ以上の混合物或いはこれらのエステルと該エステルと重合可能なビニル系単量体の 1つ又はそれ以上との混合物90~98モル%と, アクリル酸又はメタクリル酸のグリンジルエステル2~10モル%を水性媒体中で乳化重合したのちアンモニア又はアルカリ金属の亜硫酸塩又は酸性亜硫酸塩或いは, リン酸又はリン酸のアンモニア又はアルカリ金属の第一塩或いはこれらの混合物を用いて変性反応を行なうことにより最終的 pH 6~10としたことを特徴とする水性重合体エマルジョン ¹ の製造方法。
45	796699 (50.12.10)	50-8072 (50.4.1)	45-111851 (45.12.16)	芳香族多価カルボン酸のビニルアルキルエステルの製造法 (岩本 英次, 青木 俊二)	1個または2個のカルボン酸無水物基を有する三価以上の芳香族カルボン酸を脂肪族飽和アルコール (炭素数 1~10) と反応させて, 得られる反応生成物を過剰の酢酸ビニルと強酸及び銀触媒の存在下で反応させることを特徴とする三

価以上の芳香族カルボン酸ビニル・アルキルエステル
の製造法。

<実用新案> 2件

No.	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
1	1070598 (50. 2. 27) (富田 昇, 曾我部 清)	49-2230 (49. 1. 19)	45-4540 (45. 1. 14)	サンプリングガスの脱湿装置	硫酸補充口3を有する硫酸槽2と、硫酸液位維持板7と該維持板の外側に隣接してなる下方が脱湿槽底より開放あるいは穴を有する仕切壁8を具備する脱湿槽1とを管6を介して連結させ、該管6は脱湿槽側における管ロイを硫酸液位維持板7の頂部より上方に、硫酸槽側の管ロイを硫酸液位維持板7の頂部より下方に取付けてなるガス圧の正、負いずれにも使用できるサンプリングガス中の脱湿を連続的に行なう装置。
2	1086083 (50. 6. 20) (石田 正明, 横田 哲雄, 福永 健一, 佐倉 正一)	49-36387 (49. 10. 3)	44-75269 (44. 8. 6)	内部に隔壁のあるチューブ成型用口金	押出機の先端に取付ける口金であって、上記口金は樹脂の排出端部において、円柱状空洞を有する外型と、この円柱状空洞の中に収容されている内型とによって、円管状間隙が形成されており、上記間隙は、口金の樹脂送入端において開口する1個の孔に連通している口金において、上記円管状間隙に向かう内型の外周面を円周方向に沿って切欠し、上記切欠部には内型の内部に向かう貫通孔を穿設し、上記貫通孔は、内型の中心に進むに従って次第に樹脂の排出端面に近接するよう斜めに設けられているものとし、上記貫通孔は、貫通孔の直径よりも小さな幅の細隙に連なり、その細隙が樹脂排出面において内型を貫通していることを特徴とするチューブ成形用口金。

<米国特許> 18件

No.	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
1	3873431 (75. 3. 25) (大鶴 雅昭, 宮川 俊男, 山田 満男, 出原 道生)		389673 (73. 8. 20)	A process for producing a rubberlike chloroprene copolymer	有機アルミニウム化合物および水の存在下、紫外線または白色光の照射下において、クロロプレンと少なくとも一種の α - β -不飽和カルボン酸エステルとを共重合させることを特徴とするゴム状弾性体の製法。
2	3879453 (75. 4. 22) (小野 勲, 坂本 照久, 弘中 敏夫)		365100 (73. 5. 30)	process for producing methacrolein and methacrylic acid	$Sb_a V_b Mo_c T_e d W_e M_f O_g$ (ここで、M は、Bi, Tl および U からなる群から選ばれた元素であり、添字 a, b, c, d, e, f, g は原子比を表わす) なる実験式において、 $a=10$ のとき、 $b=0.1\sim 10$, $c=0.4\sim 15$ $d=0.1\sim 10$, $e=0\sim 2$, $f=0.01\sim 2$ なる組成 (g は上記実験式を満足する数値) を有する固体酸化物触媒を使用して、イソブチレンと分子状酸素とを気相にて接触反応させることを特徴とするメタクロレインおよびメタクリル酸の製造法。